

通信制

通信制の現状について
P.9で解説生徒が学び方を選んで学ぶ環境を整備し、
自分のペースで自立できるよう、生徒を支援
岡山県・私立岡山理科大学附属高校通信制課程

岡山県・私立岡山理科大学附属高校通信制課程は、通信制課程での単位認定の要件であるレポート提出とスクーリングなどのほかに、生徒が自分の興味・関心を見いだしたり、好きなことを掘り下げたりする教育活動を設け、毎日の登校を推奨している。生徒の多様な学びのニーズに対応するとともに、卒業後、生徒が自立した生活を送れるよう、学力の向上と精神の成長を支援している。

「自宅」と「学校」のどちらでも
学んでも単位修得が可能

岡山県・私立岡山理科大学附属高校は2000年4月、通信制課程を設置した。当時、全国的に増えていた不登校の生徒が、毎日登校しなくても高校教育を受けられる機会を提供するためだ。働きながら高校卒業の資格を得たいというニーズも一定数あったことから、通信制課程での単位認定の要件であるスクーリングを、社会人が出席しやすい日曜日に設定するなど、よりよい仕組みを模索。そして21年度、『好き』を究めるシン・ガッコーをキャッチフレーズに、生徒が「@Home型」と「@School型」のどちらかの学び方を自分で選べるようにした。

2つの学び方に共通するのは、高校卒業に必要な74単位の修得だ(図1)。必修科目以外は、生徒が自分で履修科目を選択。前・後期制である同校では、各期に最大15単位まで履修できる。単位認定の要件は、各科目が課すレポートの提出と、年2回の集中スクーリングへの出席だ。各期の初めに、その期に課す全レポートが配信され、生徒は自宅や学校などで取り組み、期日までに提出する。レポートを提出すると、授業とテストが行われる集中スクーリングへの出席資格が得られる。集中スクーリングの期間は毎日登校し、テストに向けた学習が行われる授業を受け、テストで合格点が取れば単位修得となる。テストの内容は基礎的なものだが、合格基準は厳しく設定している。

なお、生徒は1人1台の端末を持ち、レポートの受送信のほか、質問や相談、事務連絡などにも活用している。

2つの学び方の違いは、@Home型は卒業単位の修得のみが必須で、登校する必要はほとんどないのに対し、@School型は卒業単位の修得に加え、登校してレポート提出に向けた指導を受けたり、様々な活動に参加したりすることができる点にある。

生徒は自分の状況や希望に応じてどちらかの学び方を選ぶ。仕事や夢の実現力を入れるために@Home型を選び自宅ですぐ生徒、学校の活動に参加したいと@School型を選び、できるだけ登校しつつも、体調不良の時は自宅学習に切り替える生徒、半年間海外に留学し、その期は修得単位数

が0でも、残りの5期で卒業単位を修得する生徒など、学び方は多様だ。期ごとに学び方を変更することもできる。ただ、学び方に制約が少ない半面、自己管理が求められると、@School型担任の岡野文昭先生は語る。

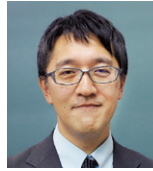
「通信制の生徒は卒業要件を十分理解し、自分の意思で科目を履修する必要があります。卒業することができるよう、自分で考えて選択し、行動することが求められる点で、自由でありながら、厳しいとも言えます」

そうした中で@School型を設置した理由を、土屋俊之教頭は次のように説明する。

「通信制に入学する生徒の多くは、中学校時代に不登校だったり、特別支援学級に通っていたりした生徒です。

生徒の学びの機会をどう保障するか？

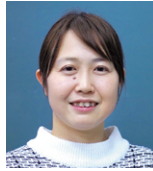
毎朝登校し、大人数で授業を受けることが難しい生徒もいます。そうした生徒が自分のペースで登校し、周囲と人間関係を築きながら様々な活動に取り組み、進学や就職をした後に自立した生活を送れるよう、学びと経験を重ねていくのが@School型です」



教頭
土屋俊之
つちや・としゆき
同校に赴任して4年目。英語科。



教務課、@School型担任
岡野文昭
おかの・ふみあき
同校に赴任して28年目。国語科。情報科。I・Tロボットエキス担当。



@School型担任
松島明希子
まつしま・あきこ
同校に赴任して12年目。理科。たんQサイエンス担当。

学校概要

設立 2000(平成12)年
形態 通信制/普通科/共学
生徒数 1学年約60人
2023年度卒業生進路実績 私立大は、開智国際大、京都芸術大、京都産業大、京都精華大、大阪工業大、大阪芸術大、大阪産業大、関西福祉大、岡山理科大、吉備国際大、倉敷芸術科学大、ノートルダム清心女子大などに延べ18人が合格。専門学校進学4人。就職4人。

徐々に学校に慣れていけるよう、系統別活動のみの参加も歓迎

@School型は、午前はレポート作成指導など、午後は「木曜スペシャル」や系統別活動などの時間割が組まれている(P.18図2)。

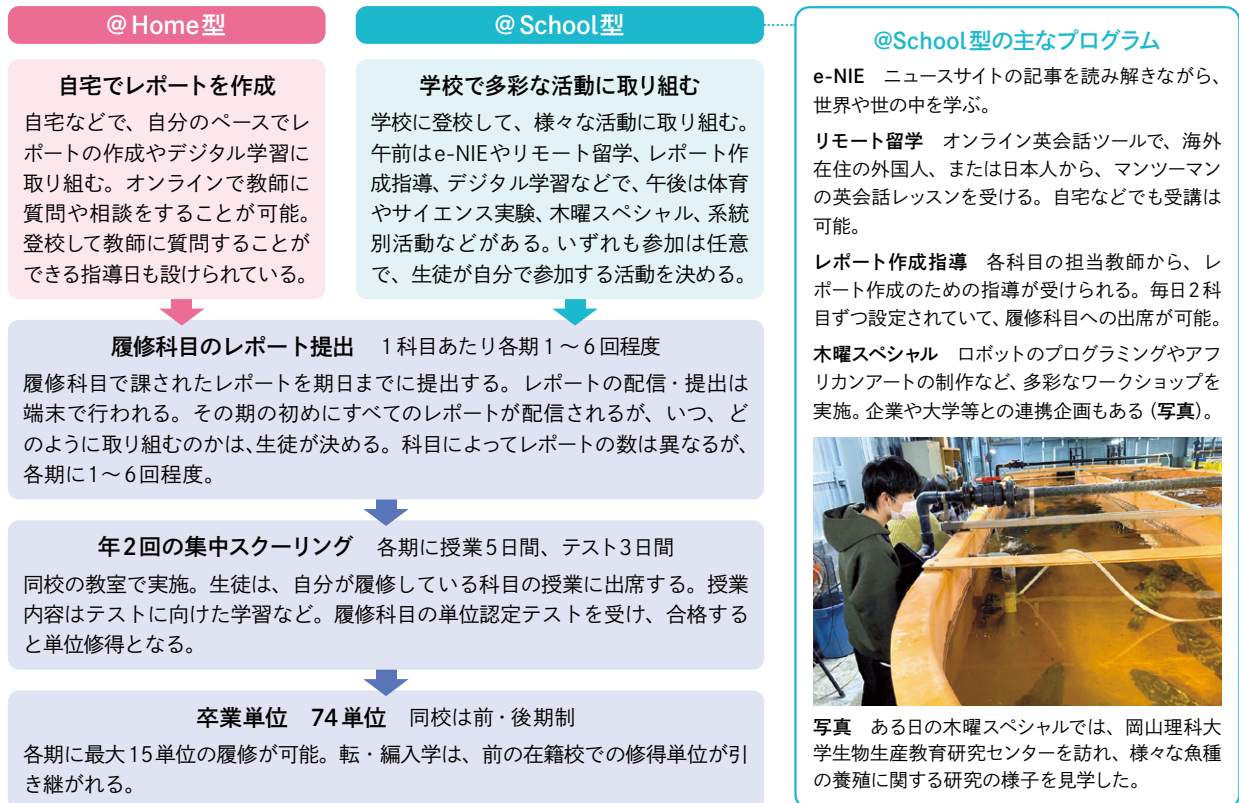
レポート作成指導は、各科目の担当教師がレポート提出に向けて指導する活動だ。毎日2科目ずつ設定されており、生徒は履修科目のレポート作成指導に出席する。@School型担任の松島明希子先生はこう語る。

「レポート作成指導に出席する生徒は10人程度で、生徒一人ひとりの学力や特性に応じた指導をしています。生徒の主体性を重視しているため、生徒が質問してきたら教師は答える形としていますが、自分から支援を求めるのが苦手な生徒には、教師から声をかけるようにしています」

木曜スペシャルでは、生徒が自分の興味・関心を見いだすきっかけとなるよう、多彩な活動を用意している(写真)。系統別活動は、「I・Tロボット」「eスポーツ」「たんQサイエンス」などの6つのプログラムがあり、生徒はその中から1つを選び、自分の好きなことを主体的に掘り下げていく。

@School型の活動は単位認定

図1 岡山理科大学附属高校通信制課程の仕組み



※学校資料を基に編集部で作成。

図2 「ジブン割」 生徒の記入例

登校・オンライン・在宅学習の中から、その日の学習方法を選択。登校の場合は登校時刻を記入

時間	5月16日(月)	5月17日(火)	5月18日(水)	5月19日(木)	5月22日(日)
08:00	S.H.R	S.H.R	S.H.R	S.H.R	
08:30	L.H.R	e-NIE	e-NIE	レポート 漢代文 レポート 日本語	
09:00	リモート留学 アッセンブリ	リモート留学 アッセンブリ	リモート留学 アッセンブリ	スペイン語 e-NIE レポート 日本語	
09:30	AI学習 or レポート 作成	AI学習 or レポート 作成	AI学習 or レポート 作成	大学特進 英語検定 AI学習 or レポート 作成	
10:00	AI学習 or レポート 作成	AI学習 or レポート 作成	AI学習 or レポート 作成	レポート 作成	
10:30	ランチタイム	ランチタイム	ランチタイム	ランチタイム	
11:00	AL系国語	わくわく サイエンス レポート 制作	体育	木曜スペシャル *国語対話本 ～正解のない問いに しかに向き合うかへ～	日曜 学習会
11:30	英語 4・5	音楽 課外 数学II	家庭科	清掃	系統別 活動
12:00	系統別活動	清掃	系統別活動	清掃	系統別 活動
12:30	日々の振り返り	レポートを 進めること ができました。	今日はいつも より集中でき ました。	視聴報告書を 少し進めるこ とができました。	保護者印 担任印 達成率 80%
13:00	日々の振り返り	演劇のストーリー なども決める ことができました。			
13:30	日々の振り返り	日曜日の疲れが なかなかなら ず、一日、4日 間行けてよかったです。 レポートと視聴報告書を 進めることができました。			

出席予定の活動に丸をつける

日々の振り返りや1週間のまとめ、目標の達成率を記入

生徒は翌週の計画を自分で立て、「ジブン割」に記入して学校に提出する。「ジブン割」は保護者とも共有している。予定にない休みは、所在確認のため、学校に必ず連絡するよう、生徒に伝えている。『予定と異なる行動をするなら、その変更を何らかの方法で周りに伝えることは、社会では必須の行動だよ』と、生徒に説明しています」と、松島先生は語る。
※学校資料を基に編集部で作成。

には直接関係はないことから出席は任意だが、同校は登校を推奨している。「何時に登校しても、生徒には『よく来たね』と、私たちは笑顔で接しています。系統別活動のみの参加でも大歓迎です。短時間でも登校して周囲のつながりができれば、友人と一緒にらと、午後のほかの活動にも出席するようになりませう。教師と話す機会が増えると、午前のレポート作成指導にも出

席するようになり、そうして徐々に学校に慣れていくことで、毎日登校できるようになっていきます」と松島先生。生徒の自立を支援する取り組みの1つが、「ジブン割」だ(図2)。次週のレポート作成指導の科目や木曜スペシャルの内容などを記載した時間割を配信。生徒はそれを見て、登校時刻や出席する活動を記入して学校に提出する。1週間の終わりに、今週は予定通り

クラスは全学年混合で、担任以外の教師にも相談できる

1クラスは約40人で、@Home型と@School型それぞれに2クラスずつ設けられたクラスは、全学年の生徒の混合としている。年齢や価値観、外見、経験など、多様な生徒が混ざることから、集団の中で誰かが浮くような状況は生じないと、岡野先生は言う。「生徒は互いを尊重し、どんな生徒も受け入れる、フラットな関係です。それが居心地のよさにつながり、登校を続けることができる要因にもなっています。クラス運営は基本的に生徒に任せ、生徒間で問題が起きてても、年長者の生徒がうまく収めてくれます。教師が介入するよりも、自分たちで解決した方が納得できることが多いようです」

また、生徒は学習面や生活の相談を担当以外の教師にも行うことができる。「生徒と教師の間にも相性はありますから、自分が話しやすいと思う教師

を生徒は選び、教師もそれを受け入れ、担任がとがめることもありません。そうしたことが風通しのよいクラス運営にもつながっています」と松島先生。子どもの就学に不安を抱えている保護者が少なくないことから、同校は普段から、学校での生徒の様子を保護者に伝えるようにしている。

「学校が連絡するのが問題が起きた時だけでは、保護者は学校からの連絡に対して身構えてしまいます。例えば、普段登校しない生徒が登校した際は、『今日は楽しく勉強していましたよ』と、生徒のよい様子を保護者に連絡して伝えるだけでも、保護者はとても安心するとともに、学校に信頼を寄せてくれるようになります」と岡野先生。教師が難しさを感じているのは、登校予定の生徒が登校してこない場合、その理由が体調不良なのか、怠慢や甘えなのかが分かりにくいことだ。「卒業後の生徒のウェルビーイングが重要であり、そのことを考えると、学力に加えて、精神面や体力面の強さも必要です。そのために登校を促していますが、つらい状況にある生徒に対して、教師は寛容であることも求められます。これからも生徒一人ひとりの状況を丁寧に見取り、成長を支えていきたいと思っています」と土屋教頭